

# 小島慶三先生をしのぶ会

日時：2008年10月19日（日）

受付 11:30・開会 12:00

場所：如水会館 2階オリオン

東京都千代田区一ツ橋 2-1-1



## 小島慶三先生をしのぶ会 式次第

開会のことば

司会 磯浦 康二

小島慶三先生をしのんで黙祷

呼びかけ人代表挨拶

小島志ネット代表幹事 山本 克郎

挨拶

献杯

元日本経済新聞社編集委員・ヒューマノミクス研究会会員  
井尻 千男

メッセージ紹介・ご歓談

映像作品『ある日の小島先生と小島塾』映写 撮影・編集 坂井 義昌

出席者スピーチ・メッセージ紹介

「千の風になって」

ご遺族代表挨拶

小島 文毅 様

閉会のことば

元市浦町町長・青森小島塾 高松 隆三

## 小島慶三先生の略歴

- 大正6年3月11日 埼玉県羽生市生まれ。
- 昭和9年 東京商科大学（現一橋大学）予科入学。
- 昭和15年 東京商科大学卒業 卒論『本邦農村協同組合史論』、同年 企画院入省、勤務の傍ら法政大学非常勤講師（農業政策）。
- 昭和17年 大蔵省出向 翌年、軍需省発足総動員局総務部勤務。
- 昭和22年 商工省（後に通商産業省、現経済産業省）大臣官房企画室勤務。緊急生産対策、物資需給調整、軍需工場の民需転換などに従事。
- 昭和24年 石炭庁国家管理準備室勤務。
- 昭和25年 物価庁機械金属課長。公益事業委員会監理課長兼調査課長。電気事業再編成、電源開発に従事。
- 昭和28年 通産省大臣官房調査課長。産業構造、産業動向調査に従事。
- 昭和30年 重工業局鉄鋼業課長兼製鉄課長。
- 昭和32年 経済企画庁 調整局調整課長。
- 昭和34年 石炭局炭政課長。
- 昭和36年 公益事業局経理参事官等。  
戦後の通産省・経済企画庁、炭鉱争議の対応や電力再編成など日本の産業復興主要業務に従事。
- 昭和37年 日銀政策委員（経済企画庁を代表、業務の傍ら、経済学にも造詣を深め、多くの大学の非常勤講師なども務める。
- 昭和38年 通商産業省審議官。退官。
- 昭和38年 日本精工(株)入社、取締役企画部長として海外の営業活動に尽力。
- 昭和45年 専務取締役就任。
- 昭和49年 日本精工(株)から芙蓉石油開発(株)に派遣され、副社長に就任。

- 昭和53年 芙蓉石油開発(株)代表取締役社長に就任。(昭和59年まで)この間経済同友会役員として理論的、政策的な活動に参加。こうした経済活動の中で、農業問題に深い関心を持ち、特に日本の「水田」の持つ多様な役割と重要性を訴えた。「小島塾」を主宰し東京をはじめ全国各地で勉強会を開く。上智大学、成蹊大学、名古屋大学、一橋大学の講師として後進の指導に当る。「近代化研究所」を設け日本の近代化の基礎が江戸時代に築かれていることの研究を進め、「人間の顔を持った経済学」を説き『人間復興の経済学』を出版。
- 昭和56年 同志を糾合し「ヒューマンミックス研究会」を設立。昭和59年 経済界から転じて、(財)日本立地センター理事長に就任。地域振興、農業振興、環境問題の重要性を説き、全国各地を訪れ、具体的な地域の取組みに参画、指導に当たる。この間 (財)日本テクノマート理事長を兼務。母校の(財)東京商科大学奨学財団の理事長として活躍。並行して、シュマッハーの『混迷の時代を超えて』、『スモール・イズ・ビューティフル』を翻訳し、理論と実践の両面で目覚ましい活躍。
- 平成4年 細川護熙氏の日本新党に参加、参議院選挙に立候補。  
平成5年 繰り上げ当選で活躍の場を政治の分野に広げ、1期5年間、国政の場でヒューマンミックスを旗印に、政治・経済・社会の改革、日本農業の自立や地方分権の推進を主張した。
- 平成6年 参議院院内会派「新緑風会」に参加。「新緑風会」を命名。

叙勲 従4位 勲3等瑞宝章

趣味は、大学時代はボート部で活躍。その後はスキー、ゴルフなど発展期のスポーツや新しい体験に興味をしめした。

また、伝統文化に通じ小唄をたしなみ、亡くなる直前まで「エッセイ集」や「句集」の発行を続けた。

平成20年8月30日逝去

## 小島慶三先生の主な著書

- 『炭鉱の国家管理－臨時石炭国家管理法解説』1948年
- 『鐵－世界的位置に立つ日本鉄鋼業』(共著)(鉄鋼と金属社) 1955年
- 『日本経済と経済政策』(通商産業研究社) 1957年
- 『新産業とマネジメント』(経済往来社) 1957年
- 『日本経済の再発見』(重工業新聞社) 1962年
- 『北武戊辰・小島楓處・永井蝮伸齋伝』1974年
- 『人間復興の経済学－ヒューマノミックスの世紀』(PHP 研究所) 1981年
- 『ヒューマノミックスの世界』(経済往来社) 1983年
- 『日本からの黒船－国際化のグランド・デザイン』(経済往来社) 1983年
- 『混迷の時代を超えて－人間復興の哲学』E.F シュマッハー著共訳(祐学社) 1985年
- 『スモール・イズ・ビューティフル－人間中心の経済学』同 共訳(講談社) 1986年
- 『江戸の産業ルネサンス－近代化の源泉を探る』(中公新書) 1989年
- 『新しくづくり対談1・2』(日本立地センター) 1990年
- 『文明としての農業－生命産業コンプレックスの提唱』(ダイヤモンド社) 1990年
- 『昭和から平成へ－五冠王の悩み』(めいけい出版) 1991年
- 『江戸から東京へ－遷都と集中』(めいけい出版) 1992年
- 『人間復興の時代－ヒューマノミックスが日本を救う』(銀座出版社) 1992年
- 『動乱の時代にどう生き残るか』(めいけい出版) 1992年
- 『農に還る時代－いま日本が選択すべき道』(ダイヤモンド社) 1992年
- 『農業が輝く－“新しい社会の創造”』(ダイヤモンド社) 1994年
- 『飢餓の世紀－食糧不足と人口爆発が世界を襲う』レスター・ブラウン著・訳  
(経済往来社) 1995年
- 『水はいのち－あたらしい文明の創造と貢献』(めいけい出版) 1996年
- 『戊辰戦争から西南戦争へ－明治維新を考える』(中公新書) 1996年
- 『文化としてのたんぼ－日本列島たんぼ讃々』(共著)(ダイヤモンド社) 1996年

『小島慶三参議院議員 国会発言録』

『小島慶三著作集(近代化研究所叢書)』1～8

- 1 米英の戦後世界経営案につき
- 2 日独の金融構造
- 3 東亜農業論序説
- 4 貨幣為替制度及び政策の研究
- 5 本邦農村社会協同組合論
- 6 戦後経済危機と再編成
- 7 炭鉱の国家管理と電力の再編成
- 8 安定的な所得分配政策の研究

『小島慶三エッセイらるる集』I～X(近代史研究所叢書)

『随筆集 ふらぐめんて』その1～その4

『句集 無明乃譜(一)(二)』

『句集 詩人の誕生』

『句集 うすあかり(一)(二)』

『句集 老いを愉しく』(遺稿)

## 「千の風になって」

私のお墓の前で 泣かないでください  
そこに私はいません 眠ってなんかいません  
千の風に 千の風になって  
あの大きな空を  
吹きわたっています

秋には光になって 畑にふりそそぐ  
冬はダイヤのように きらめく雪になる  
朝は鳥になって あなたを目覚めさせる  
夜は星になって あなたを見守る

私のお墓の前で 泣かないでください  
そこに私はいません 死んでなんかいません  
千の風に 千の風になって  
あの大きな空を  
吹きわたっています

千の風に 千の風になって  
あの大きな空を  
吹きわたっています

あの大きな空を  
吹きわたっています